

私のカルテ

No 3 2 6

鼠径ヘルニア(脱腸)

鼠径ヘルニア(脱腸)とは

本来お腹の中にあるはずの腸などの一部が、太ももの付け根のところからはみ出て皮膚の下に出てくる下腹部の病気のことです。はみ出てくるのは小腸が多いため、一般的には「脱腸」と呼ばれます。

鼠径ヘルニアの症状

最初の症状として、鼠径部(太ももの付け根)に卵くらいの大きさのポコッとしたりやわらかいふくらみが出てきます。特に立ち上がった時、何かを持ち上げた時など力んだ時に出やすい傾向があります。手で押ししたり、横になったりすると、たいていは引っ込んでしまいます。

やがて同じ症状を繰り返すようになり、ふくらみも次第に大きくなって、足の付け根に引きつるような軽い痛みが出てきます。治療をしないと、さらに大きなふくらみとなり、痛みも強くなって歩くのも困難になります。このような状態を嵌頓かんどんといい、飛び出した腸が詰

まって腸閉塞や腹膜炎を起こす可能性があるため大変危険です。

どうして鼠径ヘルニアは起るの??

鼠径ヘルニアは幼児から高齢者まで幅広く起こりうる病気です。鼠径部にはお腹の中と外をつなぐ筒状の管(鼠径管)があり、正常な状態では閉じていますが、鼠径ヘルニアでは何らかの原因でその隙間が開いて腸などが入った袋(ヘルニア嚢)が飛び出てきます。乳幼児の場合は先天的な要因がほとんどですが、成人の場合は加齢とともに体の組織が弱くなるのが要因とされています。特に40歳以上の男性に多く見られ、中でも立ち仕事をしている人や重い荷物を持つ仕事をしている人に多いといわれています。

治療について

鼠径ヘルニアは薬物療法では効果がないため、手術による治療となります。手術は大きく分けて以下の二通りがあ

り、それぞれの長所があります。いずれも3日程度の入院で治療をします。

①鼠径部手術

鼠径部を5cmほど切開して、飛び出た袋をもとに戻し、人工のメッシュ補強材で穴をふさぎます。下半身の麻酔や局所麻酔でも行うことができ、手術時間は1時間程度で、安全にできる手術です。

②腹腔鏡を使った手術

お腹に5〜10mm程度の穴を3、4カ所あけ、腹腔鏡という内視鏡を使って手術します。お腹の内側からメッシュ補強材で穴をふさぐため、手術後の痛みは比較的少ないといわれています。全身麻酔が必要なため、手術時間は鼠径部手術に比べて長くなります。

症状が始めたら病院へ

鼠径ヘルニアは症状が軽度だから気にしない、恥ずかしいなどの理由で病院を受診されない方も多い病気です。しかし一度症状が始まると自然に治ることは難しく、症状が進行すると、前述



津島市民病院
外科医師
大宮 康次郎

したような嵌頓状態に陥り、ひどい場合には緊急手術で腸を切除しなければならぬこともあります。そのため、早期の診断と治療が重要です。上記のような症状でお困りの方はぜひ当院外科にご相談ください。

